

呉市生活支援等サービス体制整備事業の取組について

呉市社会福祉協議会

1 目的

単身や夫婦のみの高齢者世帯，認知症の高齢者が増加する中，医療，介護サービスの提供のみならず，住民に身近な存在である市が中心となって民生委員，老人クラブ，地区社会福祉協議会，シルバー人材センター，NPO法人，市社会福祉協議会，社会福祉法人，介護サービス事業所，民間企業，協同組合，ボランティア，地縁組織，商工会等の生活支援サービスや介護予防サービスを担う事業主体と連携しながら，多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の促進を一体的に図っていく。

大きな「ねらい」

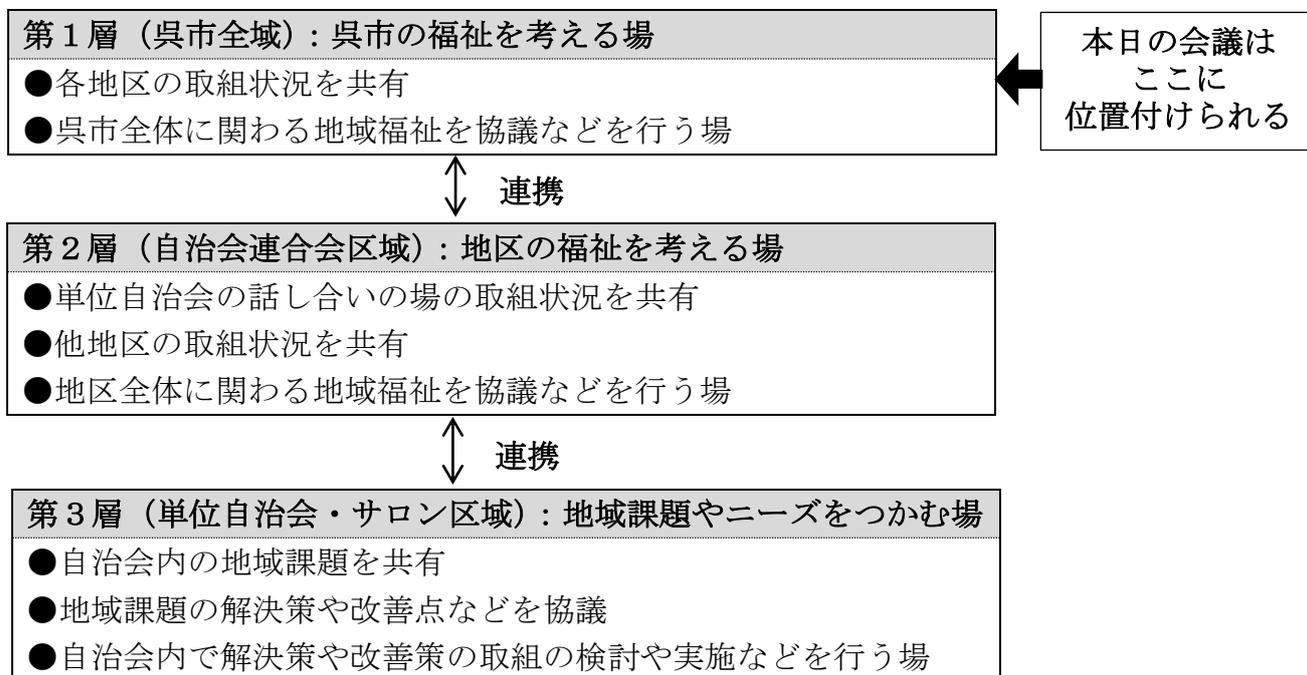
- 地域の高齢者が支え合い活動などへ社会参加することを促す
- 地域の支え合い活動などを充実・強化・創出する
- その地域ならではの支え合いの仕組みづくりを推進する

まとめると
**互助による
 生活支援の
 仕組みづくり**

2 推進体制

(1) 協議体（話し合いの場）

住民自身が主体的に地域のことを考え，地域の夢（将来）を描き，思いを共有する場。呉市では3つの階層をつくとともに，住民主体の取組の活性化を図るため，第3層からのボトムアップを目指している。



(2) 生活支援コーディネーター

協議体メンバーと協働しながら，暮らしの中にある様々な知恵や工夫などを見つけ出し，意味づけし，周囲に見える化（住民主体の活動広報チラシ，くれ福祉のお役立ちサイト「しっとってクレ」及び広報紙「ずっと元気でおってくれ」への掲載など）をする。人と人，人と場，人と支援・情報などさまざまなものをつなぎ，ネットワークをつくる調整役。

3 経過報告

(1) 前回（令和6年9月20日開催）の振り返り

買い物支援の取組として、福祉施設と連携した買い物バスを2地区（第6地区・仁方地区）で実施しており、取組地区の拡大に向け、モデル地区を選定し進めていくこととした。

(2) モデル地区の選定

ア モデル地区：昭和地区，郷原地区

イ 選 定 理 由：傾斜地に住んでいる高齢者や，バス停まで距離が遠い，近くにお店がない，歩いて買い物に行くには体力的に難しいといった理由で既に困っている住民がいるため。

比較的に福祉施設が多い地区であるため。

(3) 昭和地区の現状と課題

ア 買い物の現状

(ア) 生協ひろしまコープ焼山の送迎サービスは利用者が多く，定員オーバーで利用できない人が増加。

(イ) 買い物に行くことが難しい人には，生協の宅配を案内。

イ その他の課題

(ア) 高齢者などでごみ出しが出来なくなっている人が増加。

(イ) ごみステーションが少なく，また，遠いためごみ出しの負担が大きい。

(ウ) 買い物や通院時にバスを利用したいが，バス停までの移動手段が不足している。

ウ 福祉施設の現状

特別養護老人ホーム温養院，特別養護老人ホームコスモス園に聞き取りを行う。

(ア) 温養院

・デイサービス等の送迎車輛が空いている時間であれば貸出可能。

(イ) コスモス園

・要望の内容によるが，できる限り協力していきたい。

エ 今後の進め方

1月30日（木）に買い物支援の取組について，民生委員児童委員協議会と情報交換を行いました。今後も，地域住民及び福祉施設と情報交換を継続し，具体的な支援方法を協議していきます。

(4) 郷原地区の現状と課題

ア 買い物の現状

(ア) バス停までの坂が急で転倒の不安があるため，タクシーを利用。

(イ) まとめ買いによる荷物の重さを考慮し，自家用車での買い物が中心。（運転の不安はある）

(ウ) 移動販売車が毎週1回来ているが，駐車場所までの移動が困難で利用できない人がいる。（限られた2，3人が利用）

(エ) 子どもが近くに住んでいる世帯は，土日に買い物をして持って来てくれたり，お店まで一緒に付き添ってくれたりしている。

(オ) 地元商店が毎週金曜日に作っている様々な惣菜をよく買っている。（配達あり）

(カ) 油や醤油など重たい物を配達してもらえるので，生協を利用している人が多い。

イ 買い物についての要望

- (ア) お店が近くにないため、買い物バス等が家の前を通ってくれると助かる。
- (イ) バスで買い物に行こうと思っても、バス停まで遠く移動が大変。
- (ウ) 家が点在しているため、主要道路以外の中道を回ってもらえると助かる。

ウ その他の課題

- (ア) ごみ出しが出来なくなっている高齢者が増加。
- (イ) 自治会ごとのごみステーションの設置数が少なく、遠い場所にあるため持っていくことが負担となっている人がいる。
- (ウ) ごみ出しに困っている人の声が多く寄せられており、自治会員全世帯を対象にアンケートを実施している自治会がある。
- (エ) 買い物だけでなく、バスを利用して通院などの外出がしたくても、バス停までの移動手段がない。
- (オ) ごみ出しをホームヘルパーにお願いしたいが、ホームヘルパーの人数が少なくその時間に支援を受けることが難しい。

エ 福祉施設の現状

老人保健施設あすらや荘，特別養護老人ホーム郷原の里，
障害者支援施設野呂山学園，障害者活動センターたまごへ聞き取りを行う。

(ア) あすらや荘

- ・デイサービス等の送迎車輛が空いている時間であれば貸出可能。
- ・施設の近隣地域のみであれば協力できるが、毎週の運行は難しい。
- ・地域内にある他の福祉施設と連携することで、負担も少なくなり、前向きに協力できる。

(イ) 郷原の里

- ・人員不足のため、職員が運転することは難しいが、デイサービス等の送迎車輛のみなら貸出可能。

(ウ) 野呂山学園

- ・要望の内容によるが、できる限り協力していきたい。

(エ) たまご会

- ・送迎のための職員を雇用しているが、今のところ時間を増やすことが難しい状況。

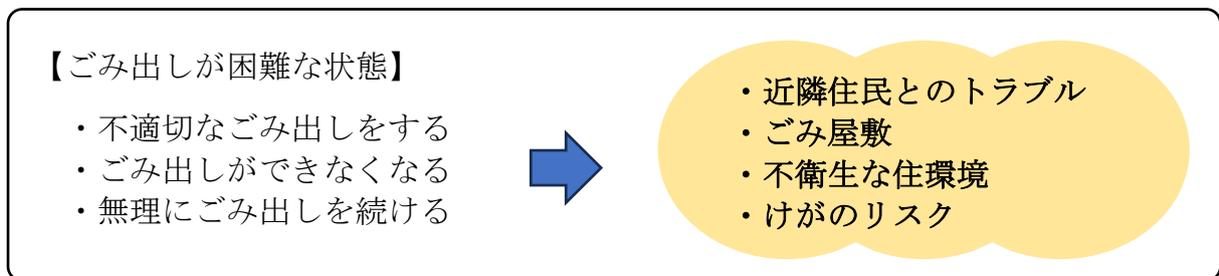
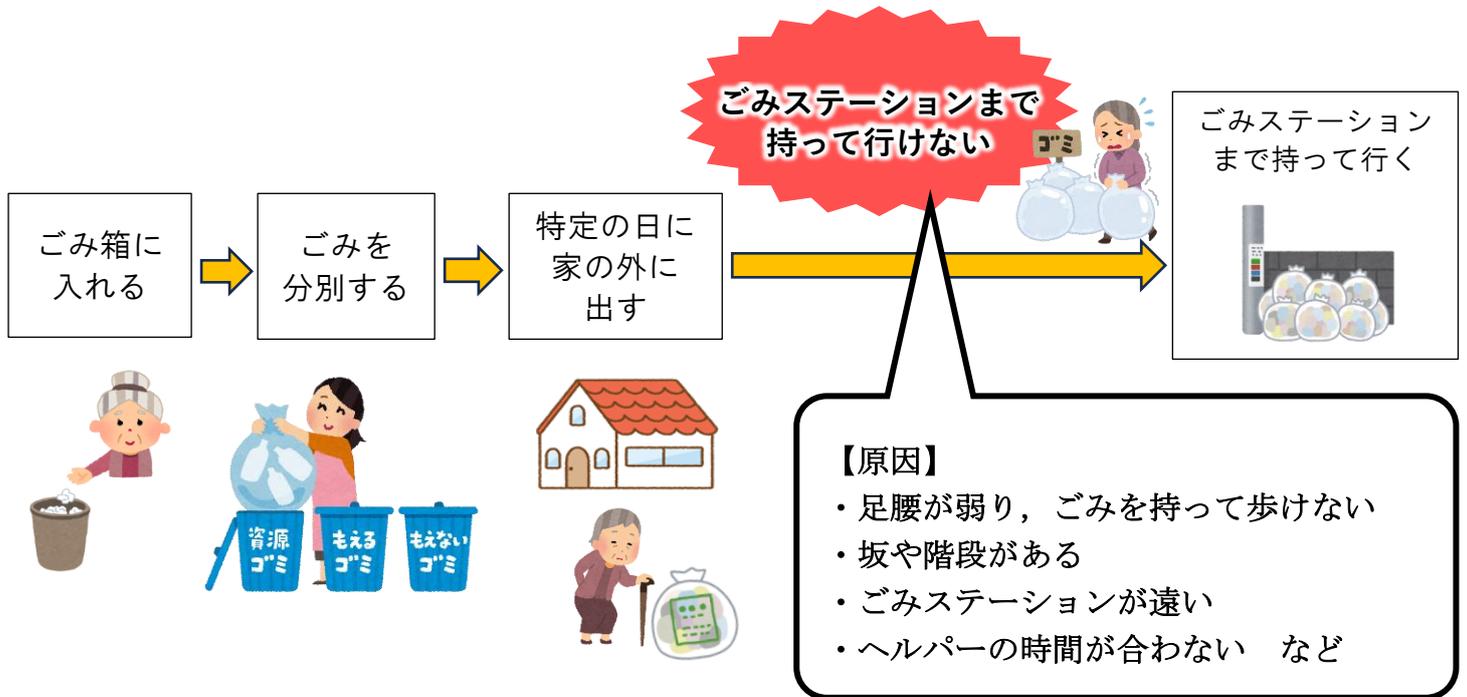
オ 今後の進め方

買い物支援の取組については、引き続き、地域住民との意見交換を行い、活動を具体化させるとともに、福祉施設との協議を継続して行きます。また、協議を重ねる中で買い物以外の生活ニーズ（特にごみ出し問題）が表面化しているため、丁寧な聞き取りを行い、本日、委員の皆さまからご意見をいただき、課題解決に向けた取組を進めて行きます。

4 本日、委員の皆さまと一緒に考えたいこと

- (1) 再度、買い物支援の取組を進めて行くためのアドバイスをいただきたいです。
- (2) 買い物ニーズの聞き取りを行う中で、新たに表出した生活上での困りごととして「ごみ出し」についての声が多くありました。今後、呉市内どの地区においても、増加していくことが予測されるため、具体的な支援方法についても、意見交換をさせていただきたいと考えました。

【ごみ出しのプロセスと課題】



協議のポイント

- ① 所属する団体で、これから協力・取り組むことができること
- ② 所属する団体だけでは取り組むことができないが、他団体（具体的に）と連携することで実現可能な取組